

(1) 大学・学科の設置理念

①大学

東京農業大学は国内外でも類を見ない農学系の総合大学として、人類生存の基盤となる農業およびその関連産業を支える学問である農学、生命科学、環境科学、バイオ産業学など農学全般の教育研究に取り組んでいる。東京農大精神は「質実剛健」「独立不羈」「自彊不息」で、現代風にいえば「物質主義に溺れることなく、心身ともに健全で、いかなる逆境にも挫けない気骨と主体性の持ち主たれ」ということである。また本学のモットー「実学主義」は、社会が実際に必要とする研究を重視する実用的で実際的な学問のあり方を意味する。

②学科等（教職課程を有する学科のみ）

動物の生命現象の本質を追究する生命科学と生産物の生産から流通までの食料生産を追求する生産科学の2領域を包含している。課程を通じて生命の尊厳や倫理を学び、豊かな心を持ち、医・薬・理学領域まで広がりを見せる生命科学関連及び良質で安全な食料を生産する生産科学領域で貢献し得る人材を養成する。

(2) 教員養成に対する理念・構想

①大学

初代学長横井時敬は「人物を畑に還す」と言った。この言葉通り本学は開学以来全国から若者を集め、地域に貢献する人物となるよう教育してきた。教員養成においても同様で、履修者が卒業後に全国各地で教育者として活躍することを目標とし、この東京農大精神と実学主義のもと、豊かで実践的な知識と技能を身につけた心身ともに健全な教員の養成を目指している。

今日、生命科学は進歩が速く、農学や環境科学には社会からの期待が大きい。本学教職課程ではこのような動向を踏まえ、学部段階では学科の基礎と教員としての基本的かつ実践的な知識と技術を習得させる教育を行う。

②学科等

本学の教育理念である“実学”の精神を授業に取り入れ、農業および中等教育の理科授業や体験授業を指導できる教員を養成するよう努めている。

さらに、生命の尊厳や倫理を念頭に、動物の生命科学および生産科学に関連する先端の知識や技能を習得させ、昨今の生命科学・畜産業の多様な諸問題に関して、知識だけでなく現場においても柔軟に対処できる教員の育成を目指している。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごと）

本学科は、動物の生命現象の本質を追究する生命科学と動物性食品の生産から流通までの食料生産を追究する生産科学の2領域を包含している。課程を通じて生命の尊厳や倫理を学び、豊かな心を持ち、医・薬・理学の領域まで広がりを見せる生命科学関連及び良質で安全な食料を生産する生産科学領域で貢献し得る人材を養成することを目的としている。

本学科の教育の特色としては、動物の生命現象の本質を追求し、これを動物性食品の生産、加工、流通を通じて社会の発展に貢献し得る人材、生命の尊厳や倫理を学び、多様な価値観に柔軟に対応し、人類の幸福に貢献し得る人材の育成をめざし以下のカリキュラムを設置している。

- 1) 動物の生殖、遺伝育種、生理など、動物の生命科学に関する専門的な知識と実践的な技能を習得させるための科目。
- 2) 動物の飼養及び衛生など、動物の生産管理科学に関する専門的な知識と実践的な技能を習得させるための科目。
- 3) 畜産物の利用及び動物産業の経営に関する専門的な知識と実践的な技能を習得させるための科目。
- 4) 実験、実習、演習、並びに卒業論文作成など、理解力、知識・技能の活用力、課題設定力、問題解決力、表現力、コミュニケーション能力を習得させるための科目。

以上の学部共通科、学科専門基礎およびコア科目の中には、広く農業・理科教育に関連した科目が多く配当されている。

《目指す理科の教員像》

学習指導要領に示されている農業・理科教育の目標を正確に把握し、生き物と向かい合う教育で培った観察能力を活かし、生徒の指導、教育相談に向かい合い、本学の教育理念である“実学”の精神を念頭に、農学・理科における座学、実験、体験を通じて生徒達を教育することができる意識の高い理科教員。